

プロジェクト代表者	谷口高平②(研究支援センター・講師/トランスレーショナルリサーチ部門・副部門長)
共同研究課題名	消化管手術が体内細菌叢に及ぼす影響のメタゲノム解析研究
目的	次世代シーケンサー(NGS)解析の技法を細菌叢解析に用いて、消化管手術による胃内、腸内細菌分布の変化や特徴的な細菌を同定し、これまで解明されていない病態を明らかにする。更に、口腔内細菌叢の変化を解析しデータを突合させることで、口腔内から腸内まで消化管全体の細菌叢変化を捉える。得られた結果から消化管手術で生じる臨床課題の病態を細菌叢から明らかにすると共に課題解決の方策を立案する。
内容	当院で施行した消化管手術症例に対し、消化器外科学教室、口腔外科学教室が連携し、術前、術後の唾液、胃液、糞便を収集する。共同研究施設である微生物病研究所で収集した検体に対してメタゲノム解析を実施し、得られたデータに対し微生物学教室でバイオインフォマティクス解析を実施する。 胃切除による胃酸減少、人工肛門造設による肛門側の糞便非など、ドラスティックな解剖学的変化を来した際の消化管細菌叢変化を中心に解析を実施する。
学内共同研究者	内山和久(一般・消化器外科学・教授)
	大住 渉(一般・消化器外科学・助教)
	今井義朗(一般・消化器外科学・助教)
	植野高章(口腔外科学・教授)
	小越菜保子(口腔外科学・助教)
	大森実知(口腔外科学・助教)
	中野隆史(微生物学・教授)
	坂口翔一(微生物学・助教)
学外共同研究者	中村昇太(大阪大学微生物病研究所・特任准教授)
研究費	2,000,000 円